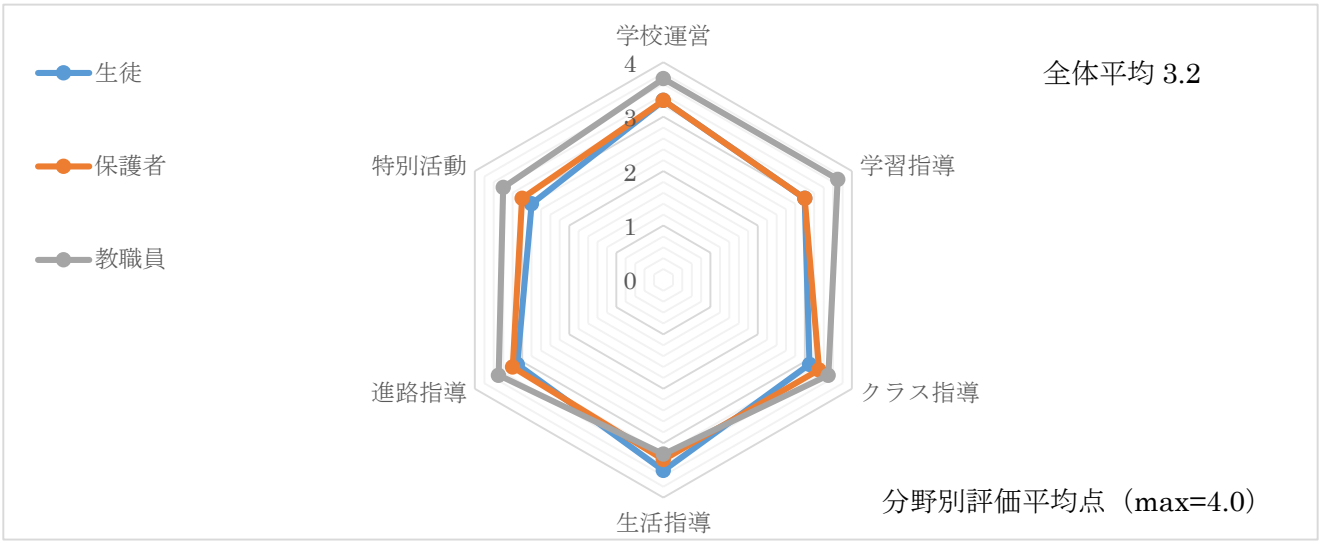
１．学校評価結果



２．学校自己評価－４段階評価－

分野／評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 ★★★½ 3．3 生徒　3.3 保護者 3.3 教職員 3.7 昨年度３．５	学校運営方針の重点目標を実践する。 成果を点検し、問題点の改善・改革に努める。	・学校運営方針にある「一人ひとりの希望や夢に柔軟に応える指導を行う」ことについて、多くの生徒・保護者から理解を得ている。 ・上級年次生徒・保護者において、とりわけ通信制・単位制における特色ある教育への理解・評価が高い傾向にあった。 ・付属高校としての教育また教育環境について評価は高いが、様々な改善・改革が進んでいるので生徒・保護者への周知がさらに必要である。 ・教職員は本校の特色への理解を更に深めることが大切である。	「東海大学付属」として一貫教育を学習指導・進路指導の柱とし、通信制・単位制による学習・行事」を通して人間性を高める教育を充実していく。 また、日本の通信制高校の先駆けとして、個々の生徒に応じた指導の更なる充実、単位制のシステム、科目の開講や質に、改善・改革を行い、内容について、生徒・保護者に対してしっかり情報を発信していく。
学習指導 ★★★☆ 3．0 生徒　3.0 保護者 3.0 教職員 3.7 昨年度２．９	基礎学力の定着および向上をはかる。 通信制教育の基本である「自学自習・自考」を促す支援、指導を積極的に行う。	・生徒が自ら学び習い、自ら考える力が養っていくことができるような授業（通信教育講座や面接指導等）の方法や内容の工夫を行っており、概ね生徒・保護者からは理解を得られている。 ・高校通信教育講座およびスクーリング登校日での学習指導等を通して、学力の向上は生徒・保護者から概ね好感を得ている。一方で、課題への取り組みだけでなく、自主的な学びを行うように働きかけていく必要がある。 ・本校のシステムでの学習により、学力の向上を促すことができた。	東海大学進学を学習指導の方針の核として、基本的な知識の獲得とともに、生徒の興味や関心を大切にしながら、それぞれの基礎学力の定着をはかっていく。各教科の通信教育講座やスクーリング等の改善・改革により、単位の修得・学力の向上についての指導を行っていく。また自学自習の学び（自ら取り組む学習習慣）が身に着けられるように指導していく。

分野／評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
年次・クラス指導 3.2 生徒　3.1 保護者 3.3 教職員 3.5 昨年度３.３	教員と生徒・保護者および生徒間の良好な信頼関係を育む。	・生徒・保護者の多くは、本校への帰属意識をもち、教職員と生徒、生徒同士という人間関係について、良好であると感じている。 ・生徒・保護者の多くは、教員や友人が相談に応じられる環境にあると実感している。本校では、悩みや問題等を抱える生徒にカウンセラーや校医とも協力し指導を行っている。 ・多様な生徒が在籍する本校において、相談しやすい関係を築くことを目的として相談員の設置を行ったことで、生徒・保護者ともより良い環境を持つことができた。	個に応じた学習・進路指導を展開しながらも、ＨＲや希望者が集う学校行事を通して様々な活動を行い、緩やかな集団の一員としての自覚を育む。また生徒の悩みや問題に早期に気づき、相談や助言を行うことができるように、教職員全体で対応していく。
生活指導 3.4 生徒　3.5 保護者 3.3 教職員 3.2 昨年度３.３	基本的な生活習慣を確立する。 人としてのモラル・マナーの向上に努める。	・礼儀や挨拶、服装・頭髪については、ＨＲや授業をはじめ様々な場面で指導を行っているが、特に生活面での個に応じた指導は生徒・保護者の意識も高く評価も概ね良好である。 ・様々な活動を通して、集団の中で、規範意識や公共心を高めていく必要がある。一方で多様な生徒の校内での居場所が求められている。 ・特に生徒は、他の生徒への思いやりを持ち、積極的にマナーやモラルについて自ら考え行動しようとする意識の高さを感じる。	多くの生徒たちは礼儀・挨拶などの基本的なことを育み、服装や頭髪等についても高校生として規範意識がある。今後も生徒への声かけを、教職員全体で行い、意識の向上をはかっていく。 登校時には、個々の生徒が自立して過ごすことのできる「空間」づくりとより良い時間の過ごし方の指導を行っていく。
進路指導 3.2 生徒 3.1 保護者 3.2 教職員 3.5 昨年度３.２	進路指導の充実をはかる。	・単位制による履修科目の選択が適切に指導されていると、生徒・保護者は概ね感じている。 ・多様な生徒の特性をふまえた進路相談・情報提供についても概ね良好と感じている。 ・東海大学進学に向けて、１年次より進路指導部と年次が連携して計画的に指導を行い、３３名が東海大学に進学している。 ・入学前学習など東海大学に接続できるプログラムを実施している中で、生徒の自己意識と取り組みを高めていく必要がある。	学習指導・生活指導・進路指導などの柱に、キャリア教育があることを教職員は認識を深め、通信制におけるキャリア教育を展開していく。また東海大学との一貫教育の強みを活かして、様々な活動を通して考える力を養い、個々の生徒がしっかりした将来設計をすることができるようにサポートしていく。
特別指導 2.9 生徒 2.8 保護者 3.0 教職員 3.4 昨年度３.０	校外活動・生徒会活動・部活動に関わることで人間性を育む。	・指定された登校日には、多くの生徒が学校生活にきちんと取り組めていた。 ・学園オリンピックをはじめ SHIP2018 など学園行事への取り組み・参加も行えた。 ・希望者が参加する校外行事や委員会や部活動などを有効に利用していると感じている生徒・保護者はいるものの、さらに充実した学校生活を過ごすことを目標に、多くの生徒の参加意識を高める工夫が必要である。 ・通信制高校として生徒が意欲的に活動できる場面を設定していくことが必要である。	生徒自ら取り組むこと・自己達成感・集団生活など、人間性を育む場面となる校外学習活動や行事の改善・改革を行っていく。また、生徒・保護者への効果的な周知方法への工夫も検討していく。 学園のスケールメリットを感じられるような行事参加への指導も行っていく。

学校基本データ 2018 年度

【学校名】東海大学付属望星高等学校（通信制）

【所在地】東京都渋谷区富ヶ谷２－１０－１（〒１５１－００６３）
ＴＥＬ０３－３４６７－８１１１
ＦＡＸ０３－３４６７－８１１４

【創　設】１９５９年４月開設（東海大学付属高等学校通信部として）
１９６３年４月設立（東海大学付属望星高等学校として）

【理事長】松 前 義 昭（マツマエ　ヨシアキ）

【校　長】永 井 成 昌（ナガイ　ヨシアキ）

【課　程】通信制・普通科

【全生徒数・クラス数】　合計１４２１名

年次	AW		C		技能教育７施設	
	生徒数	クラス	生徒数	クラス	生徒数	クラス
１年次	９７名	４組	－名	－組	３３９名	１３組
２年次	１５５名	４組	８名	１組	２６２名	１３組
３年次以上	２６２名	８５組	９名	３組	２８９名	１４組
計	４４４名	１３組	１７名	４組	８９０名	４０組

２０１８．５．１現在

※その他科目履修生等クラス設定有

【教職員数】

校長	1
校長代理・事務長	1
事務長代理	1
教頭	1
専任教諭	２０
特任教諭	3
講師	１５（東京地区技能教育３施設含、※技能教育７施設含６７）
事務職員	6（特任１名含）

【卒業者数】　卒業生数　本校１７４人、（協力・提携校１１人、技能連携２６８人）
（２０１８年度末累積　３２，８２４人）

【進路状況】〈本校〉
東海大学２９人、他大学３４人、短大６人（東海３、他３）、専門学校２４人、就職３人

２０１８年度運営方針

１９５９年ＦＭ東海実験局からの教育番組放送に始まり、１９６３年４月、付属高等学校通信教育部から、付属望星高等学校と名称を変えてから、ＦＭ東京、衛星放送、インターネット放送と時代の流れやメディアの進化とともに配信のスタイルも変化してきている。この半世紀、存続にかかわるような多くの困難に直面しながらも、東海大学の「建学の精神」に基づく本校の設立理念を守りつつ、柔軟な教育体制・教育システムを構築しながら困難を克服し、今日に至っている。

良い教育を先駆的にすすめる本校以外の通信制高校の状況は、残念ながら、株式会社立の通信制高校の乱立や暴利をむさぼるサポート校の存在、無法な勧誘を行い社会問題化するなどの状況により、通信高校自体の信頼を損ねる状況となっている。本校校長は、1昨年より今年の３月まで、文部科学省の「広域通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議」の委員ともなっている。その会議から、通信制高校に関する「ガイドライン」(2016.9)、「審議まとめ」(2017.7)が出されている。本校教職員は、通信制高校としての基本を大切にし、歴史ある本校の教育に責任と自負心を持って携わっていきたい。広域通信制・単位制高等学校の先駆者としての自負と教育の基本線を堅持しながら、今後も多くの困難に対し、教職員の英知を結集し、乗りきっていかなければならない。

さて、１９８９年には登校型のコース（平日教育）を開設したが、２０１６年度より募集を停止し、通信制高等学校の未来を見据え、コース制の大胆なリニューアルを行い、２０１８年３月をもって平日教育コースは終了した。２０１８年度以降も本校をめぐる情勢の変化は、続くものと思われ、法人全体の運営方針と連携しつつ、急な対応にも柔軟性をもって対応していかなければならない。

この間の改革では、これまでの平日教育コースの特徴を持たせつつ、放送教育コースをベースとしながら生徒の多様性に対応できる態勢をとり、多様な学びができる環境を整えた教育体制へとリニューアルしてきた。これにより、２０１６年度よりコース制を謳わずに「東海大学付属望星高等学校（通信制）」として募集を行ってきている。通信制高等学校を目指す生徒のニーズや社会環境が多様化していることに対して、大学進学を目的とした難度の高い教育指導から、基礎学力を養成する教育指導まで、幅広い層に適応した教育環境を提供している。従来のスクーリング以外に、登校してレポート作成指導や進路指導等を受けることができるなど、大学付属の望星高校にしかできない生徒・保護者の皆様一人ひとりの希望や夢に柔軟に応え、今まで以上に将来への夢を描ける高校を目指す。

私たちは、様々な目的や事情を抱えながらも本校に学びの場を求める人々に広く門戸を開き、学園の根底に流れる「愛」と「正義」の精神、「若き日に」ではじまる四つのことば（指針）を柱とする「建学の精神」を日常の教育活動の中に取り込み、教育活動の実践に取り組んできた。今後も学園創設の原点・本校存在の意義を決して見失うことなく、教育活動に邁進していかなければならない。また、生徒自らが社会性・自主性・協調性を身につけ、自己の夢や希望を抱くことのできる教育を展開すべく、「２０１８年度学校運営方針」を提示する。

（基本方針）

２０１８年度より、「平日教育コース」「放送教育コース」「技能連携コース」といったコース制の呼称をやめ、東海大学付属望星高等学校(通信制)として、「本校」と「技能連携校(技能教育施設)」と呼ぶものとする。

①「高校現代文明論」を中心とした教育の定着と推進を図る。

②高校通信教育講座の内容の更なる充実を図るとともに、レポート添削、スクーリングなどの教育活動を通じて、など、基礎学力不足の生徒への対応をも含め、多様な生徒の成長に努める。

③大学受験により対応できる講座・サポート学習の拡充・精査を図るとともに、基礎学力不足の生徒への対応を図る。

④技能連携

技能連携校の教育活動を尊重するとともに、本校の担う教育の大きさを踏まえ、より一層、信頼関係の継続・充実に努める。生徒の基礎学力の定着・向上を図る中で、専門科目の学習・技能習得を容易ならしめる指導にも心がけ、連携校との協力関係を深め、徹底した学習指導を実践する。